

2016年のうらら池散策路周辺の植物の生育状況(その1)

井上尚子・向井昭彦

植物公園の中心部にある「かくれ里の『うらら池』」(以下「うらら池」)の南西～北西部にはロックガーデンとツツジ・シャクナゲ園があり、2006年秋に池の南西岸の園路が開通してからは、野生植物や花菖蒲の新しい植栽区が整備された(井上2010、小川・藏田2015)。

今回は井上(2010)で記録したうらら池散策路周辺の野生植物のその後の状況を記録した(図1、図2、表1)。なお、2010年以降新たに植栽した植物や2010年以降に自生を確認した種については、次回記録する。

1 生育が概ね良好であった種

新しく園路が開通した当初、コンクリート壁を緑化するためハイゴケやスナゴケの仲間などを植栽してきたが、2014年ごろからコンクリート壁に直接コケ植物が生えてくるようになった。8年が経過し、コンクリート壁に含まれていた「あく」が抜け、コケ植物が生育するのに良い環境が整ったと思われる。

また、自生植物についてはコタチツボスミレ、サイヨウシャジン、ノアザミ、ノコンギク、コウヤボウキ、ヤブコウジ、コガクウツギ等、観賞的に美しいものがあり、サンヨウアオイのように里山の保全活動のよい教材となる種もある。引き続き適切な管理方法を検討しながら維持していきたい。

その他、113種が概ね生育良好であった(表1)。

2 枯死した種

(1) 灌水不足が枯死の原因と思われる種

コハクウンボク、アワモリショウマ、クジャクシダ、ヤシヤビシャク、タニタデ、タニギキョウ、ヒメレンゲ、ミゾホオズキ、ネコノメソウの仲間(人工の溪流のほとりに植栽していたものは、一時期水中ポンプが故障して数ヶ月間乾燥気味となったため枯死したと思われる)

(2) 種子による株更新をしなかったため絶えた種

ツリフネソウ、アケボノソウ、サンベサワアザミ

(3) 植え替えによる株の更新をしなかったため、土壌環境の悪化により枯死したと推定される種

タイシャクカモジ、ギョウジャニンニク(6年以上経過してから白絹病で枯死)

(4) 原因を調査中の種

サツマイナモリ、ヒメウラジロ

3 生育不良の種

ミセバヤやエッチュウミセバヤは、湿度が高いうらら池横に植栽した場合、ウドンコ病やベンケイソウスガが発生しやすかった。

オオバウマノスズクサ、ホソバウマノスズクサ、チトセカズラはつるの伸びはよいが花つきが悪かった。そこで、2016年の秋に、日当たりのよい場所に移植し、つるの巻きつけ方を変えて植栽環境を変え、経過観察中である。

その他、26種が生育不良であった(表1)。

4 移植した種

2010年以降、新たに野生植物の植栽区を整備したため、植栽環境を見直した。移植した23種のうち主な種は以下のとおりである。

シマカンギク、トラノオスズカケ、ヒメトラノオ、ゴマノハグサ、キクガラクサ、ヒロハノオオタマツリスゲ、ツルマオ、コバノギボウシ、オオバショウマ、マイヅルテンナンショウ

5 抜き取った種

同定が不確実な種(ケツルマサキ、ケテイカカズラ、セキヤノアキチョウジ、ヤワタソウ、ミヤマヒキオコシ、アキギリ)、植栽区のテーマに合わない種(メドークラリー、スイセンノウ、ハーデンベルギアなど)、周辺の植栽植物に有害と判断された種(アメリカネナシカズラ)を抜き取った。

引用文献

井上尚子. 2010. 日本の野生植物栽培記録③

～うらら池散策路周辺の植栽記録～.

広島市植物公園栽培記録 31:8-16.

小川恒彦・藏田美沙. 2015. 新ハナショウブ園の造成とハナショウブの植栽記録.

広島市植物公園栽培記録 36:16-18.

表 1-1 うらら池散策路周辺の植物の 2009 年（前回）と 2016 年（今回）の生育状況の比較

科名	和名	植栽場所	平成 28 年の生育状況 *	前回との比較 **
アカネ科	サツマイナモリ	B2	枯死	↓
アカバナ科	タニタデ	B2	枯死	↓
アジサイ科	イワガラミ	壁N	普通	—
	ウツギ	B4、B5、C 石垣	逸出（9 割伐採）	—
	キレンゲショウマ	B2、B4	不良	—
	ギンバイソウ	B5 → B2 + 他のエリア	移植後良好	↑
	コガクウツギ	B2、B4	自生（4 割活用）	—
	サラサウツギ	B4	調査中	—
	ヒメウツギ	A 崖、B2 崖、壁S	良好	—
	コンロンソウ	B2 → 他のエリア	移植	—
	スズシロソウ	B3 崖、壁S → 他のエリア	移植	—
	アヤメ科	アヤメ	C	良好
トバタアヤメ		B3	普通	—
イグサ科	ヤマスズメノヒエ	B5、C	自生（3 割活用）	—
イチイ科	キヤラボク	B1、B2	普通	—
イネ科	アシボン	B5	自生（9 割除草）	—
	ススキ	B3、C	自生（9 割除草）	—
	タイシャクカモジ	B3	枯死	↓
	ネザサ（ケネザサ含む）	A、B、C	自生（9 割除草）	—
イラクサ科	ウワバミソウ	B2	良好	—
	キミズ	B2	調査中	—
	ツルマオ	B1 → 他のエリア	移植	—
ウコギ科	コシアブラ	B3	自生（活用）	—
ウマノスズクサ科	オオバウマノスズクサ	壁N → C	生育不良 → 移植	—
	サンヨウアオイ	A、B、C	自生（活用）	—
	タイリンアオイ	B3	不良	—
	ヒメカンアオイ	B2	普通	—
	フタバアオイ	B2	普通	—
	ホソバウマノスズクサ	壁N → C	生育不良 → 移植	—
	ミヤコアオイ	B3 → 他のエリア	移植	—
エゴノキ科	コハクウンボク	壁S	枯死	↓
オオバコ科	キクガラクサ	壁S、壁N → 他のエリア	移植	—
	サンインクワガタ	B2	調査中	—
	スズカケソウ	壁S	良好	—
	トラノオスズカケ	B2 崖、壁N → 他のエリア	移植	—
	ヒメトラノオ	B3 → 他のエリア	移植	—
カタバミ科	ミヤマカタバミ	B4	調査中	—
カヤツリグサ科	アオミヤマカンスゲ	B2 → B5	移植	—
	イトスゲ	壁S	普通	—
	オクノカンスゲ	B3 崖 → 他のエリア	移植	—
	カンスゲ	B5 崖、C	良好	↑
	ケスゲ	A 崖	不良	↓
	コカンスゲ	B2 崖、壁S	B2 : 良好 壁S : 不良	—
	ササノハスゲ	B5	不良	—
	ショウジョウスゲ	A、B2、壁S	良好	—
	タマツリスゲ	B4 → 他のエリア	移植	—
	ナキリスゲ	C	自生（3 割活用）	—
	ヒカゲスゲ	A	良好	—
	ヒメカンスゲ（瀬戸内タイプ）	A	良好	—
	ヒメカンスゲ（山タイプ）	B2、壁S	良好	—
	ヒメモエギスゲ	B2、C	自生（5 割除草）	—
	ヒロハノオオタマツリスゲ	B4 → 他のエリア	移植	—
	フサナキリスゲ	B2	良好	—
	ベニイトスゲ	B3 崖	良好	—
	ミセンアオスゲ	C	調査中	—
	ミヤマカンスゲ	B2 崖、B3 崖、B5 崖	調査中	—
	ヤマアゼスゲ	B4	抜取	—
キキョウ科	キキョウ	B3(自生?)、C(植栽)	普通	—
	サイヨウシャジン	B1、B3	自生（9 割活用）	—
	タニギキョウ	B2	枯死	↓
	ツルニンジン	A	良好	—
	ホタルブクロ	B2、C、壁S	逸出（2 割活用）	—

*：自生あるいは逸出植物については、その管理方針を（ ）内に示した。（ ）内に示した割合は全株数に対するもの

**：抜取、調査中は空欄、変化なしは「—」、生育が良くなったもの「↑」、悪くなったもの「↓」

表 1-2 うらら池散策路周辺の植物の 2009 年（前回）と 2016 年（今回）の生育状況の比較

科名	和名	植栽場所	平成 28 年の生育状況 *	前回との比較 **
キク科	イヌヨモギ	壁N	普通	↓
	クサヤツデ	B4	普通	—
	コウヤボウキ	B2、B4、B5、C	自生（5割活用）	—
	サジガンクビソウ	B2	自生（1割活用）	—
	サンベサワアザミ	B2	枯死	↓
	シマカンギク	壁N→他のエリア	移植	
	シラヤマギク	B2、B3、C	自生（5割活用）	—
	ツワブキ	壁S	自生（1割活用）	—
	ニガナ	B2	自生（1割活用）	—
	ノアザミ	C	自生（5割活用）	—
	ノコンギク	B2、C	自生（5割活用）	—
	ヒゴタイ	C	普通	↓
	ヒヨドリバナ	B3、C	自生（1割活用）	—
	モミジガサ (前回 モミジハグマと誤記)	B5	不良	—
	ヤブレガサ	B5	良好	—
	ヤワタソウ	B5	抜取	
	ヨモギ	C	自生（除草）	—
キジカクシ科	アマドコロ（斑入）	A	良好	—
	イワギボウシ	壁N	調査中	
	ウナズキギボウシ	壁S	良好	—
	ウラジロギボウシ	壁S	不良	↓
	オオバギボウシ	B2、B5、壁S	良好	—
	カンザシギボウシ	壁S	不良	↓
	コギボウシ	壁S	調査中	
	コバノギボウシ	B3→他のエリア	移植	—
	スズラン	B1、B3	良好	—
	セトウチギボウシ	壁N、壁S	良好	—
	タマノカンザシ	B3	抜取	
	ツルボ	B3	ほぼ抜取	
	ヒュウガギボウシ	壁N	良好	—
	マイヅルソウ	A	良好	—
	ヤブラン	B2、B3、C	自生（9割除草）	—
	ユキザサ	A	普通	—
	リュウノヒゲ	A、B、C	良好	—
	ワニグチソウ	A、壁N	不良	↓
	キツネノマゴ科	イセハナビ	B2	不良
スズムシバナ		B2	良好	—
ユキミバナ		B2、B4	普通	—
キョウチクトウ科	ケテイカカズラ	A 崖、壁N、壁S	抜取	
	テイカカズラ	B2	抜取	
キンポウゲ科	オオバショウマ	B2→他のエリア	移植	↑
	オオミスミソウ	A	普通	—
	オキナグサ	C	やや不良	—
	クサボタン	B1	抜取	—
	ゴカヨウオウレン	B5	不良	—
	サンインシロカネソウ	B2	普通	—
	セツブンソウ	A	普通	—
	トウゴクサバノオ	B2	普通	—
	ニリンソウ	A	普通	—
	フクジュソウ	A	不良	—
	ヤマシャクヤク	B4	不良	—
ユキワリイチゲ	A、B2	良好	—	
クロウメモドキ科	イソノキ	A	伐採	
	クマヤナギ	B3	枯死	↓
	ネコノチチ	B3	良好	—
クワ科	ヒメコウゾ	B4	自生（活用）	—
コウヤマキ科	コウヤマキ	壁S	普通	—
ゴマノハグサ科	ゴマノハグサ	B3→他のエリア	移植	—
サクラソウ科	オカトラノオ	B3	良好	—
	オックスリップ	B1	移植検討中	↓
	コナスビ	A、B、C	自生（9割除草）	—

*：自生あるいは逸出植物については、その管理方針を（ ）内に示した。（ ）内に示した割合は全株数に対するもの

**：抜取、調査中は空欄、変化なしは「—」、生育が良くなったもの「↑」、悪くなったもの「↓」

表1-3 うらら池散策路周辺の植物の2009年(前回)と2016年(今回)の生育状況の比較

科名	和名	植栽場所	平成28年12月の生育状況*	前回との比較**
サトイモ科	マイヅルテンナンショウ	B4 →他のエリア	移植	
	ユキモチソウ	B4、B5	やや不良	—
サルトリイバラ科	サルトリイバラ	B4	自生(9割活用)	—
シソ科	アキギリ	B5	抜取	
	アキノタムラソウ	C	自生(5割活用)	—
	イブキジャコウソウ	壁N→他のエリア	移植	—
	ウツボグサ	B3 →他のエリア	移植	—
	カキドウシ	C	自生(調査中)	—
	カリガネソウ	B5 →他のエリア	移植	—
	キバナアキギリ	B4、B5 →他のエリア	移植	—
	クロバナヒキオコシ	B3	良好	—
	コバナタツナミ	A、B、C	逸出(除草)	—
	シモバシラ	B3	調査中	
	ジャコウソウ	B4 →他のエリア	移植	—
	セキヤノアキチヨウジ	B4	抜取	
	タジマタムラソウ	B4	不良	↓
	ツクシタツナミソウ	A	普通	↓
	ハナタツナミ	B4	不良	—
	マネキグサ	B2 →他のエリア	移植	
	ミヤマヒキオコシ?	B4	抜取	
	ムラサキシキブ	B1、B4	自生(3割活用)	—
	メドークラリ	B1	抜取	
	シュロソウ科	オオバナノエンレイソウ	B4、B5	不良
ショウジョウバカマ		A	普通	—
シライトソウ		壁S	普通	—
シロバナショウジョウバカマ		B5	不良	—
スイカズラ科	オオカメノキ	B1	枯死	↓
	オミナエシ	B3、C	良好	—
	コツクバネウツギ	B2、B4	自生(5割活用)	—
	ミヤマガマズミ	A、B2、B4	自生(5割活用)	—
スギ科	スギ	B2、壁S	普通	—
スグリ科	ヤシャビシャク	壁S	枯死	↓
スミレ科	アオイスミレ	B2	良好	↑
	イヨスミレ	A	枯死	↓
	オオバキスミレ	A	普通	—
	コタチツボスミレ	B3、B4	自生(8割活用)	—
	タチツボスミレ	A	普通	↓
	ナガバナタチツボスミレ	C	自生(調査中)	
	ヒカゲスミレ	B4	調査中	
	マルバスミレ	A	普通	—
センリョウ科	キビヒトリシズカ	B4	普通	—
	ヒトリシズカ	B4	普通	—
	フタリシズカ	B5	普通	↓
タデ科	ハルトラノオ	B2 崖、B5 崖	普通	—
ツゲ科	チョウセンヒメツゲ	A 崖、壁S	普通	—
ツツジ科	アセビ	B3 崖	自生(1割活用)	—
	コバナミツバツツジ	A、B1 ~ 4	自生(5割活用)	—
	スノキ	B2、B4	自生(3割活用)	—
	ヒメヤマツツジ	B2 ~ 4	自生(5割活用)	—
ツリフネソウ科	ツリフネソウ	B2	枯死	↓
ナデシコ科	アオハコベ	壁N	枯死	↓
	カワラナデシコ	B3	普通	—
	スイセンノウ	B1	抜取	
	ツクシマツモト	C	普通	—
ニシキギ科	イワウメヅル	B3 崖	普通	—
	ケツルマサキ(同定誤り)	壁S	抜取	
	ツルマサキ アゾウジ	壁S	不良	↓
	ツルマサキ コロラタ	A	良好	—
	ツルマサキ ミニムス	A、壁S	良好	—
	ツルマサキ(斑入)	B3	抜取	
マサキ(斑入)	B1	抜取		
ニレ科	ハルニレ	B2	普通	—

*: 自生あるいは逸出植物については、その管理方針を()内に示した。()内に示した割合は全株数に対するもの

** : 抜取、調査中は空欄、変化なしは「—」、生育が良かったもの「↑」、悪くなったもの「↓」

表 1-4 うらら池散策路周辺の植物の 2009 年（前回）と 2016 年（今回）の生育状況の比較

科名	和名	植栽場所	平成 28 年 12 月の生育状況 *	前回との比較 **
ハエドクソウ科	ミソホオズキ	B2	枯死	↓
バラ科	オニシモツケ	B3	不良	—
	コキンバイ	A	やや不良	↓
	ザイフリボク	B4	自生	—
	シモツケ	B3	抜取	
	テリハノイバラ?	C 石垣	自生（伐採）	
	ナナカマド	A、B1	普通。但し紅葉はしない。 2本伐採	—
	ワレモコウ	B3	普通	—
ヒガンバナ科	キツネノカミソリ	B3	良好	—
	ギョウジャニンニク	A	枯死	↓
	サフランモドキ	B1	普通	—
	ショウキズイセン	A、B1	普通	—
	スイセン	A、B1	普通	—
	スノーフレーク	B1	普通	↓
	タマスダレ	B1	調査中	
	ナツズイセン	B1	不良（病害虫）	↓
ヒルガオ科	アメリカナシガズラ	C	抜取	
フウロソウ科	ゲンノショウコ	A、B1～3、C	逸出（2割活用）	—
ブナ科	クリ	B4、B5	自生（実生は抜取）	—
	コナラ	B2、B4	自生（実生は抜取）	—
	セイヨウブナ	A、B1	良好	—
ベンケイソウ科	ウンゼンマンネングサ (前回シママンネングサと誤記)	壁N→他のエリア	移植	
	エッチュウミセバヤ	壁N、壁S	不良→抜取	
	オノマンネングサ	壁S	良好	—
	キリンソウ	壁N	抜取	
	コモチレンゲ	壁N、壁S	不良→抜取	↓
	ツガルミセバヤ	壁S	枯死	↓
	ツメレンゲ	壁S、壁N	移植	
	ヒメレンゲ	B2	枯死	↓
	マルバマンネングサ	B2、壁S、壁N→他のエ リア	移植	
	ミセバヤ	壁S	不良→抜取	
マチン科	チトセカズラ	壁S→壁S（他の箇所）	生育不良→移植	
マメ科	コマツナギ	B3、B5	自生（5割活用）	—
	タヌキマメ	B3	良好	—
	ツクシハギ	A、B3	自生（2割活用）	—
	ハーデンベルギア	B1	抜取	
	フジ（前回、ヤマフジと誤記）	B4	自生（9割伐採）	—
	メドハギ	B1	自生（調査中）	
ムクロジ科	ハウチワカエデ	A	不良（害虫多し）	—
ムラサキ科	アキノハイルリソウ (前回はハイルリソウ)	B2	普通	—
	ホタルカズラ	壁S、壁N	良好	—
	ミズタバコ	B2	良好	—
メギ科	イカリソウ	B3	調査中	
	キバナイカリソウ	A	普通	—
	コイカリソウ	B2、B3	普通	—
	スズフレイカリソウ	B2、B3	良好	—
	トキワイカリソウ	B3	良好	—
	バイカイカリソウ	B2、B3	良好	—
	ヒメイカリソウ	B3	調査中	
	ヤチマタイカリソウ (前回、ソハヤキイカリソウと誤記)	B2、B3	良好	—
モクセイ科	ヤマトレンギョウ	壁S	良好	—
モチノキ科	イヌツゲ	B2～4	自生（1割活用）	—
モッコク科	ヒサカキ	B2～4	自生（1割活用）	—
ヤブコウジ科	マンリョウ	B4～5	自生（2割活用）	—
	ヤブコウジ	B2～5	自生（7割活用）	—

*：自生あるいは逸出植物については、その管理方針を（ ）内に示した。（ ）内に示した割合は全株数に対するもの

**：抜取、調査中は空欄、変化なしは「—」、生育が良かったもの「↑」、悪くなったもの「↓」

表 1-5 うらら池散策路周辺の植物の 2009 年（前回）と 2016 年（今回）の生育状況の比較

科名	和名	植栽場所	平成 28 年 12 月の生育状況 *	前回との比較 **
ヤマグルマ科	ヤマグルマ	壁S	普通	—
ユキノシタ科	アワモリショウマ	B2	枯死	↓
	イワボタン	B2	枯死	↓
	コガネネコノメソウ	B2	枯死	↓
	コチャルメルソウ	B2	良好	—
	シロバナネコノメソウ	B2	枯死	↓
	ジンジソウ	壁S	調査中	
	チャルメルソウ	B2、B4	枯死	↓
	トリアシショウマ	B3 → 他エリア	移植	—
	ヒトツバショウマ	B2	枯死	↓
	ヤグルマソウ	B5	普通	—
	ユキノシタ	壁S	良好	—
	ユリ科	アマナ	A	普通（H27 から開花）
オモト		B4	調査中	
カタクリ		A	普通（紛失）	↓
キイジョウロウホトギス		壁S → B2	移植後良好	↑
キバナノホトギス		B3、A に補植	普通	—
コオニユリ		壁N	普通	—
サツマホトギス		B3	調査中	
ホトギス		B3	良好	↑
ヤマジノホトギス	B5	不良	↓	
ラン科	エビネ	B2	普通	—
	カヤラン	B2	普通	—
	キエビネ	B4	普通	—
	シュンラン	A	普通	↓
	シラン	B3	普通	—
	フウラン	壁S	普通	—
リョウブ科	リョウブ	B4	自生（活用）	—
リンドウ科	アケボノソウ	B3	枯死	↓
	リンドウ	B3	普通	↑
レンプクソウ科	レンプクソウ	A	普通	—
コケ植物	スギゴケの仲間	B2 ~ 4	自生（7割活用）	—
	スナゴケの仲間	壁N、S（上部）	良好	—
	ハイゴケの仲間	壁N、S（面部）	普通	—
シダ植物	アオネカズラ	壁S	普通	—
	イヌカタヒバ（前回、カタヒバと誤記）	壁N、壁S	良好	—
	イノモトソウ	B5 石垣、C 石垣	自生（1割活用）	—
	イワオモダカ	壁S	普通	—
	イワヒバ	B2 崖、壁N、壁S	良好	—
	イワヒトデ（前回、イワヤツデと誤記）	壁S	不良	↓
	オニヤブソテツ	C 石垣	自生、調査中	—
	オリヅルシダ	壁S	良好	—
	クジャクシダ	壁S	枯死	↓
	クラマゴケ	B2	普通	—
	シシガシラ	B4、B5、C	自生（2割活用）	—
	シノブ	壁N、壁S	良好	—
	タチシノブ	B5 石垣、C 石垣、壁S	自生（2割活用）	—
	ノキシノブ	B2、B4、B5	自生（7割活用）	—
	ハシゴシダ	C	自生（1割活用）	—
	ヒメウラジロ	壁S	枯死	↓
	ビロードシダ	壁S、B2 石付	普通	—
	フユノハナワラビ	B1	自生（8割活用）	—
	ヘビノネゴザ	壁N	調査中	
	ベニシダ	B4、B5	自生（2割活用）	—
	ホラシノブ	壁N、B5、C	自生（3割活用）	—
	ミヤマノキシノブ （前回ホテイシダと誤記）	壁S	普通	—
	ヤシャゼンマイ	B2 石付	良好	—
	ヤブソテツ	B4	自生（5割活用）	—
	ヤマヤブソテツ	B5 石垣	調査中	
	ワラビ	B3	自生（1割活用）	—

*：自生あるいは逸出植物については、その管理方針を（ ）内に示した。（ ）内に示した割合は全株数に対するもの

**：抜取、調査中は空欄、変化なしは「—」、生育が良かったもの「↑」、悪くなったもの「↓」